山積した課題総括と今後の方向性について

江嵜　悟　議員

江嵜　議員として一般質問も残すところ今回を含め2回となりました。この間、町長と氷川町のまちづくりを議論してきましたが、将来展望が違うため、議論のすれ違いが度々ありました。

しかし、山積した課題は解決しなければなりません。

大きな課題として①警察署の廃止②消防分署の新設③ゴミ処理場問題④インターチェンジ⑤八代市との修復が挙げられます。そこで、お伺いします。

私は、氷川警察署の存続を強く要望してきましたが、町長は、氷川警察署廃止について、県の方針を受け止めると答えられましたが、今でも変わりませんか。

町長　県の考え方を受け止めましょうと話しましたが、県の考え方に同調するということではありませんので、存続要望書を八代市長と連名で提出いたしました。

江嵜　町民の皆様の願いは、氷川警察署存続です。是非、要望に応えて頂きたい。次に、消防分署の新設ですが、今後の計画について教えてください。

総務課長　消防分署計画では、日奈久分署の次に計画があり、平成29年度建設となっています。

江嵜　八代市と氷川町では、ゴミ処理問題でトラブルありますが、分署建設に影響はありませんか。

町長　一部の方にそのような話はありますが、広域行政は、お互いの信頼関係で成り立っており、議論を捉え過ぎており、組合計画に影響はないと思っています。

江嵜　八代市のゴミ処理場建設の地元説明会で、氷川町のごみ受け入れは説明されていますか。

町民環境課長　説明会に出席しましたが、八代市は独自でやっていくということで、当説明会では氷川町のごみ受け入れについては説明されておりません。

江嵜　八代市は、現在ごみ処理で困っているので、栫の焼却場で2t処理して欲しいとの要望を、町長は地元説明も行わず断ったため、八代市が激怒し、新設処理場には、決して参加させないとの話がありますが、今後町のごみ処理はどの様にされますか。

町長　広域化を目指すべきだろうと思うが、明言できる時期ではないと思います。

江嵜　今の段階では、広域化は望めないので、単独での計画を早急に作成するべきです。

インターの用地買収の現状はどうなっていますか。

企画財政課長　11件が交渉中です。

江嵜　4haの元旦ビューティーの用地買収は。

企画財政課長　インターで1ha買収し、0・3haを会社で使用し、残りを賃貸する事になっています。町としては企業誘致を推進しています。

江嵜　元旦ビューティーは、土地を安く買って高く売り、町は、学校改修の屋根財に元旦ビューティーを使い、残りの土地の企業斡旋を町が行う。至れり尽くせりで、残りの土地を町に寄附して頂く位のことはして欲しい。八代市との関係修復は、どうされますか。

町長　お互いを信頼し、お願いする姿勢で臨んでいきたい。

クリーンセンター

一般競争入札について

江嵜　一般競争入札が、初めて実施されましたが、導入の結果はどうでしたか。

町長　一部入札率が高かったけど、スムーズに行えました。

江嵜　今後も高止まりの落札になる方法を継続されていきますか。

企画財政課長　議会での議論も踏まえ、改良改革の余地は残っていますので、検討していきます。

江嵜　最低制限率を85％に落とせば、町の税金が3千万浮いてきます。この様な高止まりの入札を今後も続けるのですね。

メガソーラー・クリーンエネルギー推進事業の取り組みを学ぶ

議員視察研修

平成25年8月1日から2日に、メガソーラー事業並びに自然エネルギー推進事業の取り組みを調査し、本町の行政に反映させるために、宮崎ソーラーウェイ㈱都農第二発電所、NPO法人九州・自然エネルギー推進ネットワークの視察研修を行いました。

次世代のエネルギー　メガソーラー

宮崎ソーラーウェイはリニアモーターカー実験施設を活用し、宮崎県、都農町との官民パートナーシップにより開発された画期的なメガソーラー発電所で、長さ3・9㎞の高架上に1，296枚のパネルを設置し1，050kwを発電する施設です。太陽光発電所の役割だけでなく、環境教育や観光施設として、地域活力の向上に貢献し、次世代のエネルギーを語る上でのシンボルとなっています。

発電所での現地研修

間伐材をエネルギーに

NPO法人九州・自然エネルギーネットワークでは「自然エネルギーによる町づくり」をテーマに、民間による自然エネルギー推進の活動実態調査及び民間活動を進めるうえでの課題や行政に対する要望を調査し、行政に反映させる目的で創設された。

メガソーラー、小水力、地熱、メタンガス、木質バイオマス発電等のメリット・デメリットの話や、自然エネルギーで得た電気を各家庭のスマートメーターが需要に応じて余った分を送電線に流すというユニークな話もありました。特筆的な事で「山は再生可能な油田だ」木質バイオマスの熱利用でCO_2を削減し、雇用が生まれ、山が再生するというもので、荒廃した山の間伐材や雑木を細かく砕いてチップやペレット状の燃料にして石油や天然ガスの代替燃料にするのです。ペレットやチップ工場が建設され、山では原料となる木材を下ろす新たな仕事が生まれ、林地残材の有効利用で山は元気になり、二酸化炭素は削減でき、新たな雇用も生まれるというものでした。

町民に読まれる議会広報誌を目指して

議会広報研修報告

第78回町村議会広報研修会が、平成25年7月29日から30日までの日程で東京、シェーンバッハ砂防で開催され、三浦賢治議員、上田俊孝議員が参加した。

第一日目は、国立国語研究所の山田貞雄氏、デザインコンサルタントの長澤忠徳氏、日本写真家協会会員の川西正幸氏の3氏が、発行目的に沿った企画、編集になっているか。議会活動が適切に企画され、透明度の高い広報誌になっているか。誌面展開、ページ編成がスムーズな流れの頁ネーションになっているか。行政のいま、議会の焦点課題が住民の立場から伝えられているか。誌面に住民が参加登場し、住民と議会を結ぶ工夫はなされているか。議会の役割が住民によく見え議会広報らしさのある視点・企画になっているか。賛否の公表はされているかなどの講義がありました。

2日目は、広報、編集コンサルタントの芳野政明氏が、読みやすさ、分かりやすさへの編集技術について講義があり、読者に手にとってもらうアイ・キャッチや訴求力ある表紙、本文への誘引力あるコンテンツ、目次表示になっているか。記事は正確で簡潔に解りやすいか。表記も適切か、見出しは具体的で的確、訴求力があるかなどの講義があり、また、各地の議会から提出された一つ一つの議会広報誌について、細かなクリックがありました。この研修で学んだことを今後の広報誌に活かしていきたいと思います。